

デジタルトピック (Vol.4)

本市では「デジタルで便利で豊かな新ステージ」を目指して、高齢者にもやさしいデジタル化を推進しています。

このコーナーでは、地域のデジタルに関する取り組みを紹介します。 ■問/デジタル推進課 ☎572-3943

▶職員一丸となって障がい者にもやさしいデジタル技術の普及に取り組みます！



一般社団法人 福島県聴覚障害者協会 障がい者にもやさしいデジタル化の新たな取り組み

福島県聴覚障害者協会は、総務省のデジタル活用支援推進事業の事業実施団体に選ばれ、耳が聞こえない方、聞こえにくい方向けのスマホ講座を実施します。

スマートフォンには音声認識アプリや電話リレーサービスといった、耳が聞こえなかったり、聞こえにくい方向けとなるサービスもあり、コミュニケーションの輪を広げてくれます。

より多くの方にデジタル技術を活用したサービスを利用して欲しいという思いから、障がい者にもやさしいデジタル技術の普及に取り組んでいきます。

耳が聞こえない方、聞こえにくい方向け スマホ講座参加者募集 無料

■対象者/耳が聞こえない方、聞こえにくい方
※身体障害者手帳の所持は問わない。

■定員/各回10人

■会場/福島県聴覚障害者協会
(渡利字七社宮111)

講座内容

基本

- ・アプリのインストール
- ・インターネットやLINEの使い方 など

応用

- ・音声認識アプリ
- ・電話リレーサービスの利用方法 など

■日程/9月20日から毎週水曜日(全10回)

午後1時~(2時間程度)

右のQRコードから
開催スケジュールを
確認できます。



■講師/福島県聴覚障害者情報支援センター職員

■問い合わせ・申し込み
福島県聴覚障害者協会

☎522-0681

(月~金曜日 午前9時~午後5時)

FAX563-6228

✉fukushima-deaf@f-da.or.jp

9月1日(金)午前9時~受け付け開始(開催日の前日までに申し込んでください)

We Love♥
ふくしま!

第62回

「トップセールスからの新展開」



この夏も、各地でくだものトップセールス。視点が異なる方々とのやり取りから、たくさん気づきやアイデアが生まれます。

青果市場からはお盆頃に桃の供給が求められる一方、有名高級くだもの店は、お中元シーズンに主力商品の投入が必要といえます。

同店からは、消費者は色々な種類を食べたいし、小家族化しているので、複数品種の詰め合わせが喜ばれること、くだものを買わない若い世代でもスイーツは積極的に消費すること、ブランド化するには希少性が大事であることなど、消費動向も教えていただきました。

この夏、販売促進員が桃のピンバッジをしてPRしましたが、ピンバッジを買いたいという方が結構いたのは驚きでした。私たちは、市場動向に適切していくことが大切です。

時期の課題に関しては、温暖化に対応して、求められる時期に出荷できる人気品種の栽培拡大や、新品种の開発を進める必要があります。

今年、詰め合わせ用の「FIBOX」という箱を開発しました。贈答用と家庭用の2種類がありますが、贈答用の箱は、大変力フルでカワイイと好評をいただいています。私は何度も活用していますが、さまざまに組み

合わせパターンが可能ですので、実りの秋に「FIBOX」を活用してはいかがでしょうか。

くだものを使ったスイーツは、スイーツ・プレミアムやピーチアップルホリデイなどの取り組みで、市内でも、ずいぶん新商品が開発されてきました。スイーツ周遊に県外から来訪される方も多数います。スイーツ好きの私には、うれしい限りですが、満員で入店を諦めるケースも多く、くだものスイーツのお店が今後さらに増えていくことを期待しています。

新品种の開発は、公的機関だけでなく、個人で品種登録される方もいます。優れた品種は、希少価値を維持してブランド化する仕掛けを考えていきたいものです。

そして、桃のピンバッジの件を考えてみると、わらじまつりなども関連グッズが少ないですね。福島が誇りとするものは、消費者ニーズを把握しながら、関連商品を製作・販売し、認知度と経済効果を高めていきたいと思えます。

福島市長 木幡 浩



⑤



臨時災害
ラジオ放送

万一災害が発生した場合、市は、FMポコ(76.2MHz)を「臨時災害ラジオ放送局」として、避難所やライフラインなどに関する緊急情報をお知らせします。 ●問/危機管理室☎525-3793